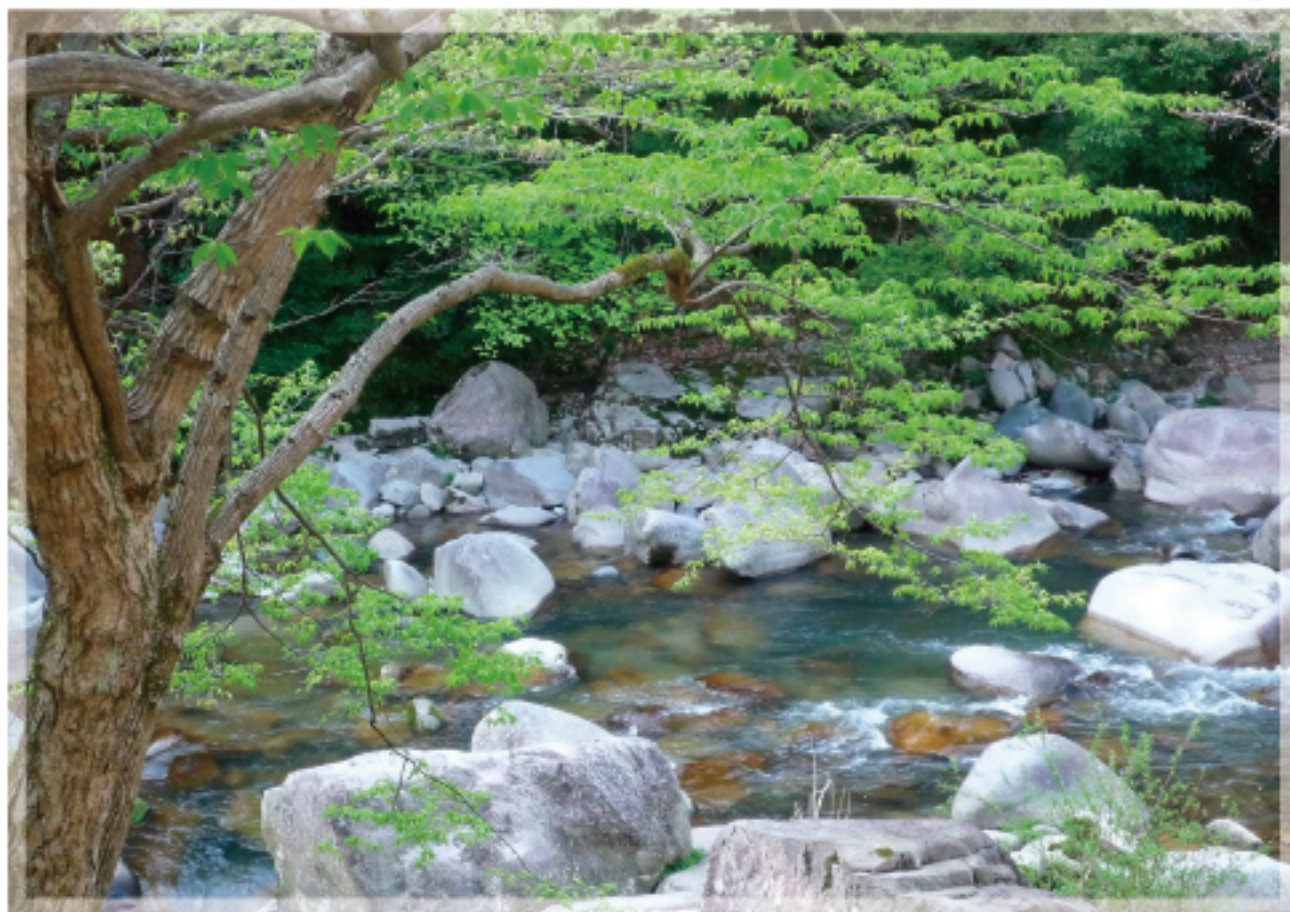


# 川崎医科大学附属病院 がんセンターNEWS

Vol.12 2012 夏・秋号



撮影 園尾博司

- 泌尿器科のご紹介
- 再構築が求められる各学会の専門医制度
- 第18回日本ヘリコバクター学会学術集会を開催して

## インフォメーション

- 第7回Oncology Seminar
- オープンカンファレンス



## 泌尿器科のご紹介

泌尿器科は副腎・腎・尿管・膀胱・前立腺・生殖器を主体に担当する診療科です。我々が診療するがんは腎細胞がん、腎盂尿管がん、膀胱がん、前立腺がん、陰茎がん、精巣腫瘍など多様であります。入院患者さんの大多数はがん患者さんで、初期治療から手術療法、抗がん化学療法、緩和医療まで様々な治療を受けておられます。当科ではがん患者さんには100%告知を行っており、それ故にインフォームドコンセントは特に丁寧に行うように心がけております。治療方針はスタッフ全員で行われる週2回のカンファレンスで活発な討論のもと徹底的に検証されて、患者さんのために最善の治療が提供できるように努力をしています。また、月に1度は病理カンファレンスを開いて、病理医、放射線科医と合同で症例検討会を行っております。当科の特徴として、特に前立腺がんに対して手術療法としては腹腔鏡下前立腺全摘除術を行っており、放射線治療としては高線量率組織内照射療法（本邦最多症例数）を行い、低侵襲、機能温存に積極的に取り組んでおります。科のモットーとしては患者さんを中心に、患者さんを常に身内と考え、誠意と謙虚さをもって診療にあたります。診断治療には緊張感を持って、そして、人には笑顔でやさしく対応することとしています。



## 再構築が求められる各学会の専門医制度

乳腺甲状腺外科 園尾 博司

10年余前から Evidence based medicine (EBM) に基づいた診療ができる専門医の育成のために多くの学会が専門医制度を構築してきました。2002年、厚生労働省通達により、9つの外形基準を満たした学会の専門医は、広告可能となり、各学会が競って広告できる専門医制度の構築を行い、現在に至っています。

一方、専門医が医療ミスを起こすなど、専門医のレベルが社会で問題視されています。そこで厚生労働省医政局の「専門医のあり方に関する検討会」が立ち上げられ、求められる専門医像のほか、質の保証と地域偏在是正を担う中立的な第三者機関による専門医制度の構築が検討されています。現在、各学会の専門医制度のヒアリングが行われており、本年8月にこの検討会の中間報告が発表されました。

現在、18の診療領域を専門医制度の基本領域とし、基本領域の専門医を取得した上でサブスペシャリティの専門医を作る形の二段階方式にすること、総合医も専門医のひとつとして加えるとの方向性について合意が得られています。今後、この第三者機関による各学会の専門医制度の認定が行われこととなりますが、やっと落ち着いてきた各学会の専門医制度の改正が必要になる学会も多いと予想され、混乱が起こらないことを願いたいものです。

## 第18回日本ヘリコバクター学会学術集会を開催して

食道・胃腸内科 春間 賢

平成24年6月29日(木曜日)、30日(金曜日)の両日に、第18回日本ヘリコバクター学会を岡山コンベンションセンターで開催いたしました。胃粘膜に棲息するグラム陰性桿菌であるヘリコバクター・ピロリ(以下ピロリ)菌は胃炎、消化性潰瘍、さらに胃癌の主たる原因です。ピロリ菌を発見したオーストラリアのロビン・ウォーレン先生とバリー・マーシャル先生が、2005年にノーベル医学・生理学賞を受賞したことは皆さんご存知だと思います。ピロリ菌の除菌により、胃潰瘍や十二指腸潰瘍が再発しなくなり、また、最近の日本の報告から、ピロリ菌を除菌すると胃癌の発生を抑制することが明らかになりました。しかしながら、いつ、どのような経路でピロリ菌に感染するのか、感染者がなぜ潰瘍になったり胃癌になったり、異なった病気になるのか、胃癌が発生する過程はどのようになっているか、ピロリ菌の治療に用いる抗生剤の耐性の問題、除菌に失敗すると次にどのような治療を行うか、除菌後にどのように経過を観察するかなど、多くの問題があります。本学会には、過去最高の700名を超える臨床、基礎の研究者、実地医家の先生方が参加し、それらの問題について最新の発表と活発な討議が行われました。また、日本ヘリコバクター学会では、H. pylori(ピロリ菌)感染症認定制度を発足しており、ピロリ菌に関する正しい知識、患者さんに還元できる正しく確実な除菌療法、除菌後の経過観察の必要性について、学術集会と同時に教育セミナーを開催し、さらに、認定医取得のために試験を受けて頂きました。

日本ヘリコバクター学会は平成7年4月1日に発足し、平成23年8月1日に一般社団法人となり、約1540名の会員数となっております。ピロリ菌が胃癌の原因であることが明らかになり、今後、ピロリ菌の除菌療法はますます、普及してきます。ピロリ菌は消化性潰瘍や胃癌だけでなく、MALTリンパ腫、特発性血小板減少性紫斑病、アレルギー性疾患、齲蝕、動脈硬化症、糖尿病との関連も指摘されています。この機会に、除菌療法を行う先生方は本学会に加入頂き、診断と治療に関する必要な知識を学ぶとともに、ぜひ、H. pylori(ピロリ菌)感染症認定を取得下さい。



第7回Oncology Seminar (看護師・メディカルスタッフ向け)

日時:平成24年11月17日(土) 13:30~16:00

場所:川崎医科大学 現代医学教育博物館3階小講堂

テーマ

「がん患者の療養を支えるチーム医療 ~頭頸部がん~」

講演

- ①「頭頸部がんの基礎知識」 栗飯原 輝人 (耳鼻咽喉科医長)
- ②「放射線療法を受ける患者の看護」 荒木 貞子 (看護副主任)
- ③「頭頸部がん患者に対する摂食・嚥下リハビリテーション」 矢野 実郎 (言語聴覚士)

オープンカンファレンスのご案内

下記のカンファレンスを行っています。  
参加ご希望の際は地域医療連携室までご連絡をお願いします。

呼吸器カンファレンス

呼吸器内科・呼吸器外科・放射線科(診断・核医学)・病院病理部合同で「呼吸器X線カンファレンス」を行っています。院外の先生方もどうぞご参加ください。気になる症例がありましたらレントゲンをお持ちいただいても結構です。

日時 第2・4月曜日 18:00 ~ 19:00  
場所 9階中病棟 第2カンファレンス室

緩和ケアカンファレンス

毎週木曜日13:15から14階西カンファレンス室で緩和ケアチームのカンファレンスを行っています。

Case Conference

各診療科から症例を提示し、その診断と治療およびケアについて複数の診療科で、また医師・看護師のみならず広くコメディカルも参加して横断的かつ総合的に討論し勉強する症例検討会です。

日時 第2木曜日 18:00~19:00  
場所 川崎医科大学 校舎棟M703号教室

大腸癌化学療法カンファレンス

外科・内科・臨床腫瘍科・放射線科の医師・看護師・薬剤師など多職種からなる医療チームで、外来大腸悪性腫瘍に対する治療方針(化学・放射線療法プロトコール・手術介入など)の決定についてのカンファレンスを行います。院外の先生方や医療スタッフの皆さまもどうぞご参加ください。

日時 第1・3金曜日 17:30 ~ 19:00  
場所 本館10階 遠院治療センター

Nutrition Support Team(NST)カンファレンス

毎週火曜日14:00から14階南カンファレンス室でNSTミーティングと勉強会を約1時間行っています。どなたでも参加可能です。



川崎医科大学附属病院

〒701-0192 岡山県倉敷市松島577  
TEL 086-462-1111(代表)  
<http://www.kawasaki-m.ac.jp/hospital/>

紹介患者さま受診予約窓口

■地域医療連携室  
TEL(086)462-1111(内線22611・22613)  
FAX(086)464-1166  
E-mail renkei@med.kawasaki-m.ac.jp